

資料編

平成 18 年度八幡湿原自然再生協議会
委 員 名 簿

八幡湿原自然再生協議会委員名簿（平成18年度）

総数 36名

〔 専門家3名，地元住民代表2名，公募委員25名（個人15名，団体・法人10名），
関係行政機関（環境省）1名及び地方公共団体5名（北広島町2名，広島県3名） 〕

専門家 3名（氏名五十音順）

所属等	氏名	住所	備考
広島大学教授	中 越 信 和 <small>なか こし のぶ かず</small>	東広島市	植物
広島虫の会会長， 広島県立大学名誉教授	水 田 國 康 <small>みず た くに やす</small>	広島市	動物
土木学会 コンサルタント委員， 西中国山地自然史研究会	野 村 吉 春 <small>の むら よし はる</small>	広島市	土木

地元住民代表 2名（団体名五十音順）

所属等	氏名	住所	備考
西中国山地自然史研究会	会長 近 藤 紘 史 <small>こん どう こう し</small>	北広島町	
八幡地区行政区長会	会長 前 健 生 <small>まえ たて お</small>	北広島町	

公募委員（個人） 15名（氏名五十音順）

所属等	氏名	住所	備考
（株）LAT	青 木 普 <small>あお き しん</small>	広島市	
西中国山地自然史研究会会員	上 野 吉 雄 <small>うえ の よし お</small>	廿日市市	
ヒョウモンモドキ保護の会	大 田 実 果 <small>おお た み か</small>	呉市	
北広島町（旧芸北町）出身	上 手 新 一 <small>かみ て しん いち</small>	広島市	
高原の自然館（北広島町教育委員会） 学芸員	白 川 勝 信 <small>しら がわ かつ のぶ</small>	北広島町	
カキツバタの里づくり実行委員会	高 木 茂 <small>たか き しげる</small>	北広島町	
広島県鳥獣保護員	田 坂 素 臣 <small>た しか もと おみ</small>	北広島町	
（財）日本気象協会（元気象庁予報官） NHK広島 気象キャスター	中 田 隆 一 <small>なか た たか かず</small>	広島市	

所属等	氏名	住所	備考
	橋本卓三	三次市	
日本山岳連盟 自然保護指導員	堀啓子	広島市	
みずえ緑地(株) 会長	正本良忠	広島市	
写真家	宗岡泰昭	広島市	
内外エンジニアリング(株) 広島事業所長	山本高義	広島市	
	吉井玲子	呉市	
広島大学大学院 国際協力研究科	渡邊園子	東広島市	

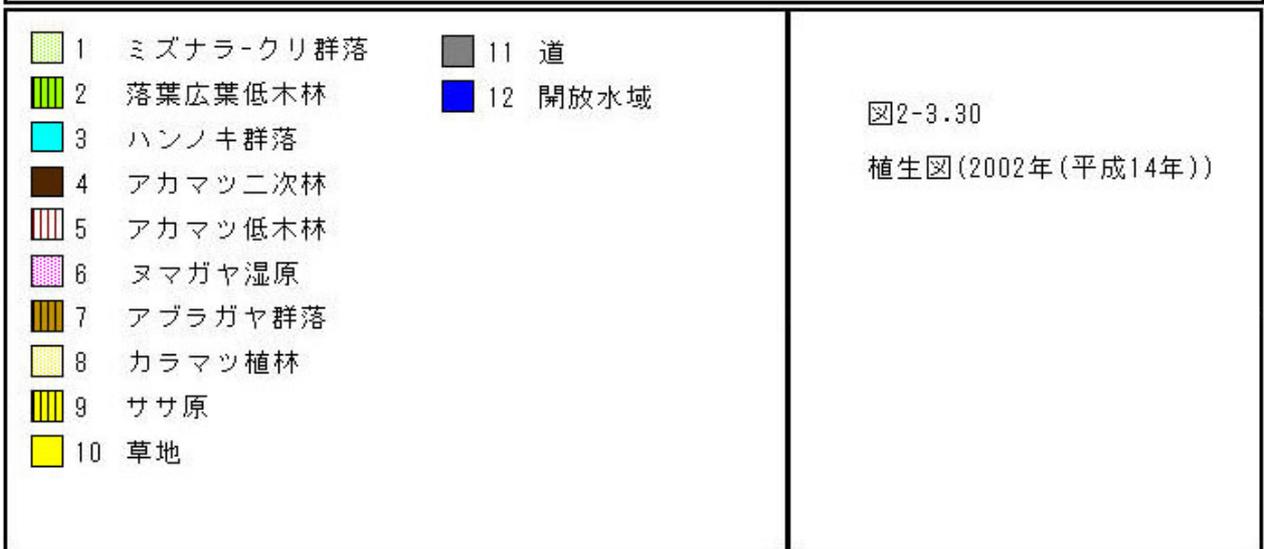
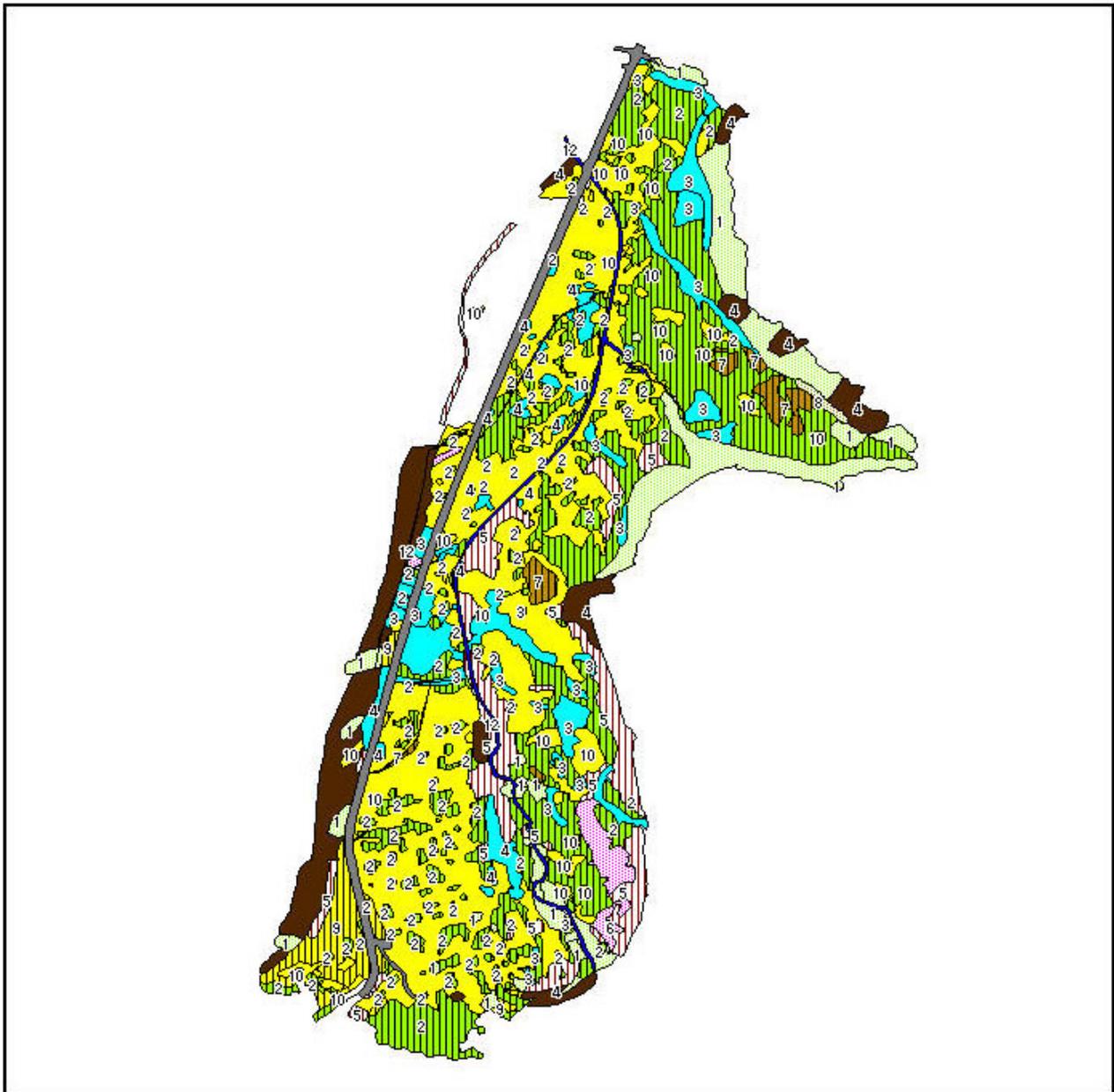
公募委員(団体・法人) 10名(団体・法人名五十音順)

所属等	氏名 (は代理出席予定)	住所	備考
特定非営利活動法人(NPO法人) 海外壮年協力隊 広島支部	副理事 高月明彦	広島市	代理 原博篤
カキツバタの里づくり 実行委員会	会長 川内信忠	北広島町	
西条・山と水の環境機構 (西条酒造組合10社で構成)	理事長(賀茂鶴酒造代表 取締役会長) 石井泰行	東広島市	代理 前垣寿男
特定非営利活動法人(NPO法人) ちゅうごく環境ネット	理事長 福本健	広島市	代理 山崎互
中電技術コンサルタント(株)	取締役社長 寺田達明	広島市	代理 大竹邦暁
(社)日本山岳会 広島支部	支部長 種村重明	広島市	代理 齋陽
(財)広島県環境保健協会	理事長 岡田孝裕	広島市	代理 和田秀次
広島県自然観察指導員連絡会	代表 加藤正嗣	広島市	代理 茂田幸嗣
ひろしま人と樹の会	会長 荒川純太郎	広島市	代理 畝崎辰登
八幡湿原を守る会	代表 岩田和美	北広島町	

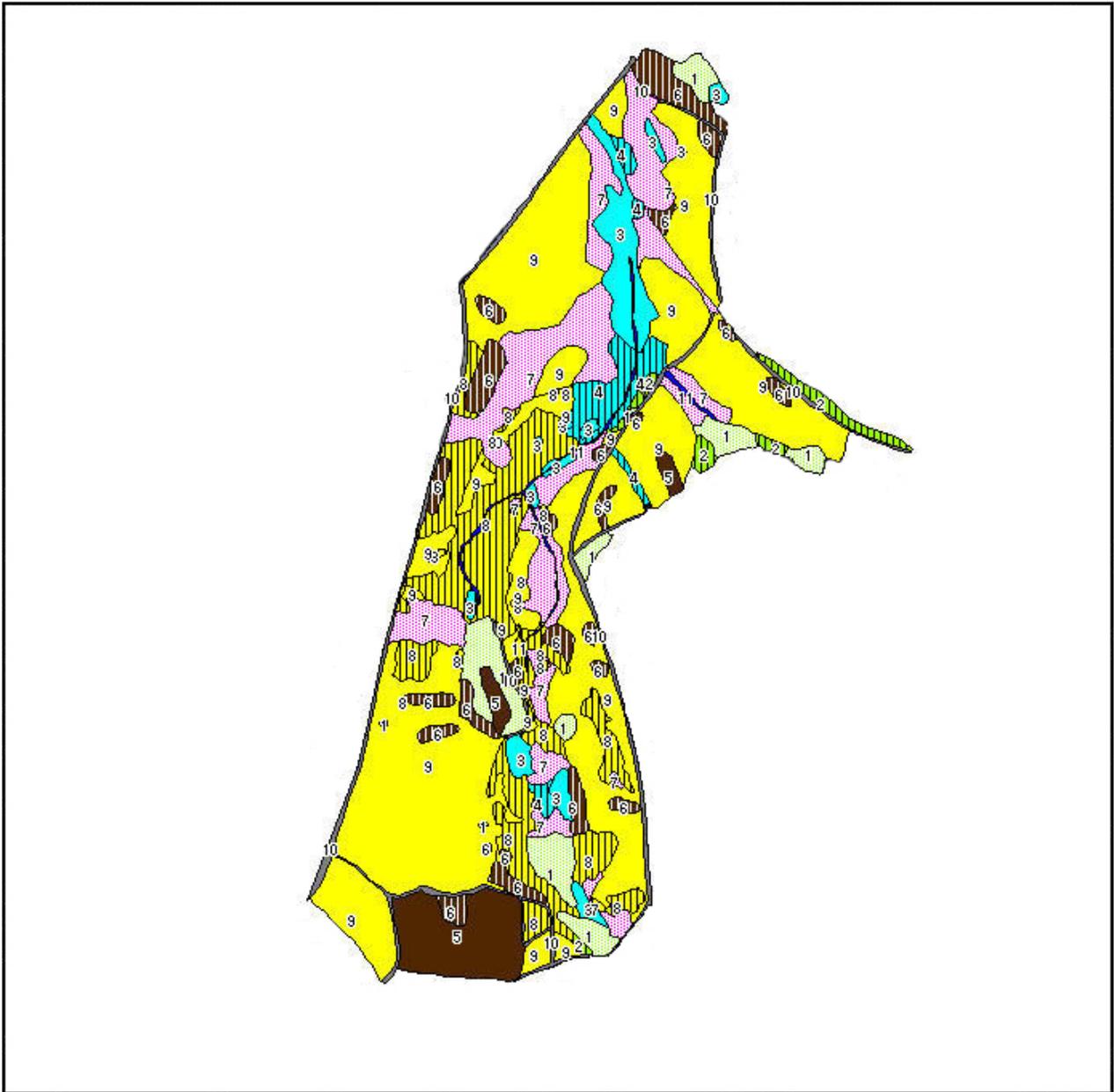
関係行政機関 1名, 地方公共団体 5名

所属等	氏名	住所	備考
環境省 中国四国地方環境事務所 自然再生企画官	やま ぐち やす ひろ 山口 恭 弘	岡山市	関係行政機関
北広島町助役	おが もと すずむ 岡本 進	北広島町	関係地方公共 団体
北広島町教育委員会教育長	かへ ます とし あり 鷲 研 利 勇	北広島町	関係地方公共 団体
広島県 芸北地域事務所 農林局長	い こう ただ あき 伊藤 忠 明	広島市	
広島県立林業技術センター 森林環境部長	とき みつ ひろ し 時 光 博 史	三次市	
広島県 環境部 環境対策局 自然環境保全室長	なか しげ かず るう 中 重 和 郎	広島市	

現 地 の 状 況



出典：広島県芸北地域事務所，臥竜山麓自然再生事業推進計画調査業務報告書，平成16年3月（一部修正）
2002年植生図



- 1 落葉広葉二次林
- 2 落葉広葉低木林
- 3 ハンノキ林
- 4 ハンノキ低木林
- 5 アカマツ二次林
- 6 アカマツ低木林
- 7 湿地
- 8 ササ原
- 9 草地
- 10 道
- 11 開放水域

図2-3.27

植生図(1964年(昭和39年))
(牧場造成前)



対象区域の状況

三面張り水路最下流部から南東へ向けて撮影。

対象区域内には低木が多く、湿地のような場所はあまりみられない。



対象区域の状況

三面張り水路中間部から南へ向けて撮影。



対象区域の状況

三面張り水路最上流部を中心に北を上撮影。

中央上部に常緑樹であるアカマツ林がみられる。



対象区域の状況

三面張り水路最上流部を中心に東を上撮影。

中央部に常緑樹であるアカマツ林がみられる。

中央左側の水路と町道の間はハンノキ林である。



対象区域内を通る町道の状況

1980年代後半にアスファルト舗装された道路。

町道に沿った側溝や横断溝については、動物が移動できるように再整備する予定である。



対象区域内を通る三面張り水路の状況

対象区域に流入した水を一気に押し流すと共に、側壁に設けられた水抜きパイプから地下水が排水されているため周辺土壌が乾燥している。このため、河床を埋め戻し、地下水の流出を抑制することにより、対象区域内の地下水位を上昇させる対策を講じる予定である。



対象区域内を通る三面張り水路の状況

最上流部の状況。



対象区域内の自然河川の状況

三面張り水路上流部の自然河川の状況。



対象区域の湧水
湿地の状況

マアザミが優占
する湿地となっ
ている。



対象区域の湧水
湿地の状況

マアザミやミス
チドリがみられ
る。



対象区域の氾濫
原湿地の状況

ハンノキ林の林
床にハンカイソ
ウがみられる。



対象区域の氾濫
原湿地の状況

オタカラコウ群
落の氾濫原湿
地。



対象区域周辺の
代表的な湿原

尾崎谷湿原

対象区域の北西
に位置し，八幡
湿原の中でも最
大の湿原。比較
的規模の大きな
湧水湿地が存在
する。



対象区域周辺の
代表的な湿原

水口谷

対象区域の南西
に位置している。
ハンノキ群
落がその中核と
なっており，ハ
ンカイソウやヨ
シ，カキツバタ
などがみられ
る。



対象区域の動植物

ミズチドリ

日当たりの良い湿地に生える多年草。

広島県の絶滅のおそれのある野生生物の準絶滅危惧 (NT) に選定されている。



対象区域の動植物

ハンカイソウと ミヤマカラスアゲハ

ハンカイソウは山地のやや湿ったところに生えるキク科の多年草。芸北地域の全域に分布しているが県内の分布は限られている。

ミヤマカラスアゲハは山間の渓谷林に生息する。羽を開いた大きさは約100mm。



対象区域の動植物

モリアオガエル

樹上性の中型のカエル。湿地や水田などの止水域に張り出した植物に、握りこぶし大の白い泡状の卵塊を産みつける。



対象区域の動植物

モリアオガエル

卵塊



対象区域の動植物

カスミサンショウウオ

全長9～13cm,湿地や水田の小溝に一对の卵のうを産みつける。
広島県の絶滅のおそれのある野生生物の絶滅危惧類(VU)に指定されている。



対象区域の動植物

ハッチョウトンボ (左:雌,右:雄)

国内最小のトンボで,体長は約18mm。
広島県の絶滅のおそれのある野生生物の絶滅危惧類(VU)に指定されている。



対象区域で実施された調査の状況 (広島県)

水文調査

現在の地下水の状態を把握するため、2003年9月から2005年3月にかけて、水位観測、流量観測、降水量調査、水質調査、土壌調査を行った。



対象区域で実施された調査の状況 (広島県)

植生調査

対象区域内の植生を把握するため、2003年9月から10月にかけて植生調査を行った。



対象区域で実施された調査の状況
(広島県)

ヒメシジミ
マーキング調査

対象区域における生態系の把握のため、2004年4月から2006年8月にかけて、鳥類、両生類、昆虫類、水生生物の調査を行った。写真はヒメシジミの生態把握のためのマーキング調査状況。



対象区域で実施された調査の状況
(広島県)

水生生物調査

平成18年8月30日
に行った水生生物の調査状況。



芸北 高原の自然館ホームページより

対象区域における
西中国山地自然史
研究会による実験
地の設置状況

棚田のように水を
たたえた場所を創
出することで湿原
を復元する実験地
が、2004年4月18
日に設置された。



芸北 高原の自然館ホームページより

対象区域における
西中国山地自然史
研究会による植生
調査

実験地で年2回行
われている植生調
査の状況。
2006年7月22日
に夏季調査が行わ
れた。



芸北 高原の自然館ホームページより

対象区域における西中国山地自然史研究会による鳥類相調査

2004年9月12日に行われた鳥類相調査。かすみ網による捕獲調査とラインセンサーが行われた。

環境省の許可に基づく捕獲調査であり、データは全国調査の記録として蓄積されている。



芸北 高原の自然館ホームページより

対象区域における西中国山地自然史研究会によるカスミサンショウウオの産卵調査

2006年4月29日に行われた調査では、対象区域内の山際、特に北東部で多くの卵塊が確認された。